

## 単元名 固まった形から(立体)

配当時間 4時間

- 単元の目標 (1) 固めた布をいろいろな向きから見て、その形の特徴をとらえ、工夫して作品に表すことができる。
- (2) どのように固めたら面白いのか考え、できた形から想像を広げるとともに、友達や自分の作品のよさを感じ取り、自分の見方や感じ方を深めることができる。
- (3) 液体粘土で布を固めた形から想像を広げ、主体的に立体に表す活動に取り組もうとする。

## 標準的な展開例

06080104\_001

【準備等】液体粘土、アルミ針金、ひも、ポリシート、液体粘土用容器、ペンチ、布、芯材となるもの（ペットボトル、瓶、缶、ハンガー、洗濯ばさみ等）新聞紙、装飾材、色画用紙、角材、板、釘、金づち、木工用接着剤、化学接着剤、粘着テープ、水彩用具一式、雑巾、はさみ、汚れてもよい服装

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1～2 芯になるものに布をかぶせイメージを広げ、液体粘土で形を作る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教科書の参考作品を見て、形や色から、作者のイメージを感じ取る。</li> </ul> <p>★液体粘土で不思議な形をつくろう</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>芯になるものに布をかぶせたり、布をつるしたりしてイメージを広げる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>豚に見える。</li> <li>飛んでいる鳥みたい。</li> </ul> </li> <li>液体粘土を浸した布で形をつくり乾かす。</li> </ul> <p>3 着色し飾り付けをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>着色する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>にじみ、ぼかし、たらしなど様々な技法を取り入れ変化を出す。</li> </ul> </li> <li>飾りを付ける。</li> </ul> <p>○展示の仕方を考える。</p> <p>4 鑑賞する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>お互いの作品に名前を付け合い、その理由について話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> <li>友達は〇〇と言っていたけど、私には△△に見えました。</li> <li>ねじって細くなっているのだから〇〇に見えます。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科書 5・6下 P.28, 29</li> <li>教科書の参考作品や実物の参考作品を見せながら、学習課題をつかませる。</li> <li>教科書を参考に、液体粘土で固まった布の感じや芯材への布のかぶせ方、つるし方によって形が変化することを知る。</li> <li>いろいろな高さや方向・角度から見てイメージを広げさせる。</li> <li>布の形だけでなく、しわやその形の面白さに気付かせる。</li> <li>布にしわをつけたり、かぶせ方による凹凸の違いをつくったりして、変化をもたせる。</li> <li>枝や針金などを通して面白い。</li> <li>固まると芯を外しても立つことを知らせる。</li> <li>固まった布の形をさまざまな方向から見て見立て、つくりたいものを見つけさせる。</li> <li>台紙にも色をつけてイメージが伝わりやすくさせる。</li> <li>表現したいテーマが伝わりやすい着色方法を考えさせる。</li> <li>葉っぱや花、枝などを装飾材として使用し、飾り付けをさせる。</li> <li>【評】固まった布の形の特徴を生かし、つくりたいものを構想する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</li> <li>【評】固めてできた布の形を生かして工夫して作品を制作する活動を通して、「知識・技能」を評価する。</li> <li>【評】液体粘土で固めた布の形から作品をつくり上げる活動の様子から、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</li> <li>立てて置きたい場合は土台をつけるとよい。</li> <li>鑑賞のプリントを用意し、美しかったり面白かったりした形について記入し、発表させる</li> <li>【評】友達の作品のよさや面白さを感じ取る活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</li> <li>【評】これまでの学習活動や作品を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</li> </ul>

## 【 備 考 】

他教科等との関連

外国語活動と同じく、ショー・アンド・テルの中で作品について伝えることが考えられる。